



茶

防寒対策は
万全ですか？



農業経営支援課
山本 尚充

これから春先にかけて、季節風の強い日があり、寒さも厳しくなります。防風施設の点検や整備は早めに行ってください。特に、樹勢の悪い茶園（病害虫被害や葉層の無い茶園等）、幼木園では、事前対策を万全にしてください。

《寒害の種類と対策》

(1) 落葉

幼木園や自然仕立て茶園を中心に寒風により葉が落ちる症状です。防風ネットを設置し、寒風を和らげ落葉の被害を最小限にしましょう。

(2) 青枯れ

山間部の標高のある茶園では、冬季の雨が少なく、乾燥した場合に葉が青いまま光沢を失い枯れる症状です。（今年は平坦地でも起こりました。）山草や敷草を株元に入れ、土壌の乾燥を防ぎましょう。

(3) 赤枯れ

茶樹の限界温度であるマイナス12℃以下になった時、葉が赤褐色になり枯れる症状です。軽い症状では、葉が紫色になり春先に落葉する場合があります。落葉と同様に防風ネットを設置して寒風を防ぎましょう。

(4) 裂傷型凍害、サメ肌症状

初冬から春先に、急激な温度低下によって幹割れが起こる症状です。敷草、山草を施用し、株元の保温を行いましょう。

*敷き草等の施用は、事前の寒害対策と有機物の補給につながるため、積極的にに行いましょう。

《被害を受けやすい茶園》

- (1) 山間部の標高の高い茶園（今年は平坦地でも起こりました。）
- (2) 冬の季節風を強く受ける茶園
- (3) 冷たい空気が停滞する窪地や低地茶園

(4) 病害虫（クワシロカイガラムシ）等の被害の大きい茶園

(5) 秋芽の硬化が遅れた茶園

(6) 秋整枝作業が早く再萌芽した茶園（秋から冬にかけて翌春萌芽する芽が充実してきませんが、被害を受けて落葉量が多くなると生長中の芽に影響がでてきます。）

《翌一番茶葉数の確認》

秋整枝作業後、11月中下旬までに翌一番茶になる幼芽形成が終了します。越冬芽（幼芽）を縦か横方向に切断すると、翌一番茶の開葉数がわかります。基本的には、芽が小さいと葉数が少なくなります。カッター等を使い切断して確認してみましょう。

